

Community Welfare Total Care Promotion Project

トータルケアNEWS

1 1 2 0 0 6 . 8 . 3 0

発行 社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
〒010-0922 秋田市旭北栄町 1-5
TEL 018-864-2711 FAX 018-864-2701
URL <http://www.akitakenshakyō.or.jp/>
E-mail chiiki@akitakenshakyō.or.jp

CONTENTS

【特集】

トータルケア運営委員による
モデル社協視察・・・1～7

【新聞記事から】・・・8

【トピックス】

美郷町後三年駅前に
空き店舗活用の拠点オープン
・・・9～10

【特集】 トータルケア運営委員によるモデル社協視察

秋田県社会福祉協議会では、地域福祉トータルケア推進事業の評価や効果的推進を図ることを目的に、トータルケア運営委員によるモデル社協（湯沢市、藤里町、美郷町）視察を実施いたしました。

訪問には6名の委員が参加し、特徴的な事業やモデル社協職員との意見交換を通して現場の状況を肌で感じていただきました。

今回のトータルケアNEWSでは、モデル社協を訪問していただいた委員の皆さんから寄せられた感想を御紹介いたします。

藤里町社会福祉協議会 平成18年7月26日（水） 午前11時～午後2時

【藤里町社協出席者】

菊池まゆみ（事務局長） 佐々木田鶴子（福祉活動専門員）

【秋田県トータルケア運営委員出席者】

柴田博（県社会福祉士会長） 藤原由美子（県福祉政策課長）
吉田慶嗣（県社協常務理事）

【オブザーバー】 齊藤照子（県福祉政策課主幹）

【秋田県社協】 高橋清好（地域福祉課長） 安田大樹（地域福祉課主事）

【視察スケジュール】

11時～12時 「元気の源さん」見学

1時～2時 トータルケア事業推進に関する意見交換

「藤里町社協『元気の源さん』を全県に！！」

秋田県健康福祉部福祉政策課長 藤原 由美子委員

この度、県内3モデルのひとつの藤里町社協の取組について、現地視察及び町社協との意見交換を通して感じたことを申し述べたい。

まず、「元気の源さん」が藤里町の取組のポイントであると感じたので、そこに焦点を絞ってコメントしたい。

ネーミング

その人らしく生き生きと暮らせる安全・安心の社会は、誰もが望んでいるが、言うは易く行うは難し。

現代社会において地域で住民のために何か活動しようとしても、ライフスタイルや価値観の多様化などがバリアとなり、なかなか反応は鈍いと考えられる。つまりそっぽを向けられないメニューを見つけ出すことが難しい。社協もそのことに苦心したとのこと。

まず、事業実施にはどのくらい関心を持ってもらうかが鍵と考えられる。「元気の源さん」はネーミングがよい。仕掛けとしては、ばっちりだと感心した。

次はその中身はどうであるかだが、今回見学させてもらったプールでのウォーキングは、参加者がイキイキと楽しく実施していた様子を拝見して、今後もきっと継続可能なプログラムとなるのではないかと感じた。



プールを使ったウォーキングの様子

住民自ら

いわゆる地域福祉とは、主権者は住民となるべきであるが、最初から住民にどうぞ好きなプログラムを自分で考えてといっても無理があるので、今のところ社協が専門家と相談しながらメニューを作っている状況であると見受けられた。

しかし、今後はやはり住民が主体とならないと、一過性のものになってしまう懸念があることから、あと2年で住民側への移行ができるようなしっかりした体制づくりを望みたい。

50人の福祉員と20人の民生児童委員がそれぞれの役割を主体的に考え、社協がコーディネートしていけば、自ずとその道は開けてくるはず。何をなすにも人材づくりとネットワークが、事業の推進の要となる。

波及に期待

トータルケア事業が、赤ちゃんから高齢者までライフステージに添う事業という視点で実施されれば、より身近で効果的な事業が推進されると考えられる。今後の藤里町社協の取り組みに期待したい。

「藤里町社会福祉協議会のトータルケア事業を視察して」

秋田県社会福祉士会長(秋田看護福祉大学教授) 柴田 博委員

7月26日に、藤里町を訪れました。午前は「ホテルゆとりあ藤里」にて菊地事務局長からトータルケア推進事業の実施状況の説明を受け、当日活動していた「元気の源さんクラブ事業」(毎週1回)を見学させていただきました。この日は、介護予防事業として、石井保健師から血圧を測定してもらい、その後「ゆとりあ」職員の健康運動指導士高橋トレーナーのもと、温水プールで水中運動が実施されておりました。参加者は20名ほどでしょうか、笑顔が見られ楽しそうな印象を受けました。私たちは、昼食後社会福祉協議会に会場を移しましたが、参加者の皆さんは午後からは在宅福祉相談員の菊池さんとともにストレッチ体操の予定になっておりました。午後も引き続きトータルケア推進事業自己評価や藤里町が行っている当事業推進のフローチャート図等々の説明があり、トータルケア運営委員や県社協職員との質問や意見交換が行われました。

私は、平成15・16年度に藤里町の「地域ケア会議」立ち上げの際に参加させていただき、町の状況や社協との連携等々の一端には触れる機会を持っておりました。今回、トータルケア推進事業の進捗状況の説明を受け、住民の相談受付から生活支援ニーズと生活支援サービスとの対応、インフォーマルサポートとしての近隣ネットワーク協力員・民生児童委員・福祉員の活躍、そして技能組合や商工会の方々の参加が増加していることをうかがい、「福祉」による町づくりが着実に進行していることを知ることができました。

地域には、様々な生活課題を抱えながら、どうしていいのかすら解らずに日々の生活を送っておられる方が居られます。地域福祉を標榜する市町村社協の使命は、その人のニーズ・その地域のニーズにどのように対応していくかにあります。

今回、短い時間ではありましたが、県社協が推進する事業を実践している藤里町社協の視察をさせていただき、大変勉強になりました。非常に痛ましい事件がありました。先般行われた福祉大会には、300人以上の町民が参加したそうです。私たちが抱える課題は、そこに住む私たちが解決をしなければという思い・意識からではないでしょうか。



藤里町社協での意見交換

「福祉員による住民ニーズ把握に期待」

秋田県社会福祉協議会常務理事 吉田慶嗣委員

藤里町社会福祉協議会では、昨年度から始まったトータルケアのモデル社協として、重点事業4項目すべてに取り組んでいるが、今回はそのうち、「介護予防のための健

康生きが「いづくり」として行われている「元気の源さん」の様子を見せていただいた。会場の「ゆとりあ藤里」は、平成 8 年に厚生労働大臣から温泉利用型健康増進施設に認定されているが、以前私は県保健衛生課勤務時に、ユフォーレ（秋田市河辺）と本施設の設立に携わったことがあり、今回の元気の源さん事業が、この施設で開催されていることに感慨深いものを感じた。

当日「元気の源さん」は、温水プールで行われていたが、参加者はみな嬉々とし若々しい水着姿で参加していた。圧倒的に女性が多く、男性はただ一人の参加であった。これは本事業に限ったことではなく、各種社協事業への男性参加が常に求められている。「元気の源さん」へのスタッフの関わりは、施設の水中運動教室の指導員のほか、社協職員が 5 名で高齢者向けの運動教室開催時における安全面への人的配慮を感じた。なお、県スポーツ科学センターでは、藤里町をモデルとして「元気アップ推進事業」を行っているが、この事業とタイアップすることにより、専門家による指導が受けられるとともに、事業評価の手法なども学ぶことができると考えた。また、「元気の源さん」は、今回のプールでの水中運動だけでなく、転倒予防対策、口腔ケア、アクティビティ、栄養改善など、様々なメニューで構成されており、従来、福祉サイドで保健・医療に関わる事業展開がほとんどなかったことを思うと「元気の源さん」に類した運動による健康づくり事業の展開は、予防介護が叫ばれる時代の要請であり、今後各市町村社協にあっても必至の事業と感じた。

また、口腔ケア事業については、「健やかで質の高い生活を確保する」視点で、秋田県歯科医師会も積極的な取り組みを始めており、県社協としても保健・医療・福祉の連携による実践的な活動として、藤里町社協の口腔ケア事業（歯っとして GOOD ～町営歯科診療所の先生による口腔ケア～）の展開に注目しているところであり、多くの市町村社協に取り組んでいただきたいと考えている。なお、口腔ケア事業の推進については、秋田県歯科医師会と県社協で協議済みであり、具体的な進め方などについて不明な点についてはご照会願いたいと思う。

会場を藤里町社協に移しての「トータルケア」全般に対する検討協議では、これまで既存の各種委員会との関係で設置できかねていたサポート運営委員会のメンバー構成について、従来の福祉員に併せて活動していただくことで、十分機能することが話し合われ、真の住民ニーズの把握体制に一層弾みがつくことになった。

ところで、藤里町社協では、昨年度のトータルケア事業成果に手応えを感じており、特に今年 1 月下旬に展開した除排雪作戦が地域のトータルケアの一つの形になったと受け止めている。取り組み以来、また 1 年数ヶ月のトータルケアであるが、焦らずに種を蒔き、その萌芽を町内のあちらこちらに育てていただきたいものである。

最後に、7 月 22 日に開催された藤里町社会福祉大会で心に残った言葉がある。「（今回の事件を受けて）この町は以前の姿に戻ることはできない。しかし、もっとすばらしい町にすることはできる」と。

トータルケアに取り組む藤里町社協職員の一層の活躍を期待して止まない。

湯沢市社会福祉協議会 平成18年7月31日(月) 午前10時～午後2時

【湯沢市社協出席者】

阿部清悦(地域福祉課長) 赤平一夫(地域福祉課長補佐) 中山めぐみ(皆瀬地区サポートセンター主事) 築瀬和子(雄勝地区サポートセンター主任) 阿部サトコ(稲川地区サポートセンター所長補佐)

【秋田県トータルケア運営委員出席者】

高橋 章(県障害福祉協議会長)

【秋田県社協】 佐々木繁(地域福祉部長) 笈川卓也(ホライアセンター主事)

【視察スケジュール】

10時～ 坊ヶ沢地区介護予防事業(健康講話)
11時～ 坊ヶ沢ふれあい会館視察
11時30分～ 「きっさこ」視察
1時～2時 トータルケア事業推進に関する意見交換

「トータルケアモデル社協を視察して」

秋田県障害福祉協議会長 高橋 章委員

今回運営委員として、トータルケアモデル事業指定を受けた湯沢市社会福祉協議会を訪問させて頂き、その取り組み状況、課題やご苦労されていること等見聞することが出来た。

最初の訪問地は、山間部坊ヶ沢地区のサポート委員会(ガンコウラン委員会)主催の「健康教室」で泥湯温泉郷の奥山旅館を会場に、～温泉の効能について～、「秋田花まるっこ」元気アップ体操を組み合わせ保健師さんの指導で実施された。参加者は高齢者の方々25名であり終始、笑いが飛び交う和やかな雰囲気終了。その後、自慢の手料理での交流会と温泉入浴が待っている、といった具合に住民主体の手づくり、生きがいのサロン計画も地域の大きな活動の特徴と思えた。また、少子高齢化が顕著な地域でもある。住民の活動拠点を廃校となった体育館の一部を改良し立ち上げた「坊ヶ沢ふれあい会館」を視察。周囲には持ち寄って植えた花壇が整備され、開花も間近であった。案内してくれたCSWの担当者から、この空き地の一部で「炭焼き」をしたいという住民からの提案がなされたことを聞いた。住民サイドからそういう声が出ると言うことは、徐々にトータルケアの意義が浸透してきていることが伺える。是非実現し、生きがいと社会参加拡大に繋げることを期待したい。



坊ヶ沢地区介護予防事業の様子

次の訪問は、市内大型店舗の一角を借りての各種福祉団体の活動拠点・市民の休憩

所・総合相談生活センターとしての機能も備えた無料休憩所「きっさこ」。立ち上げ以来、障害者関係団体や各種ボランティア団体が無料で運営し、その成果として利用者が増え、専門的な相談への対応等新たな課題があがっているとのことであるが、反対にうれしい悲鳴と受け止めるべきであるし、各種団体等ボランティアの方々に運営委員会を立ち上げようと、前向きに事業が進展している点も大きな成果と評価したい。また、市中心部東小学校区の地域の先鋭部隊で組織されている、地域サポート委員の活動にも期待したい。CSWの皆さんとの意見交換の中で“トータルケア”……等々横文字が多いと言う苦情が多いと聞き、なるほどと頷いてしまったが今後の事業展開する上で非常に大事な要素を含んでいる気がする。それぞれの地域の文化、生活環境の違いを踏まえその地域にあったトータルケア事業推進を望む。最後に関係各位の熱意と努力に敬意を表し結びとします。

美郷町社会福祉協議会 平成18年7月26日(水) 午後4時～8時30分

【美郷町社協出席者】

高橋幸悦(事務局次長) 事務局次長(大阪孝次) 事務局次長(板谷智子)
木村節男(仙南福祉センター在宅福祉相談員)
渋谷まゆみ(仙南福祉センター地域福祉活動コーディネーター)

【秋田県トータルケア運営委員出席者】

鈴木亨(秋田魁新報社論説委員) 丹すみ子(湯沢市あかねの会)

【秋田県社協】 門脇琢也(地域福祉課主査)

【スケジュール】

4時10分～ 後三年駅前空き店舗見学
4時30分～6時 トータルケア事業推進に関する意見交換
6時30分～8時 雁の里ふれあい委員会空き店舗作業委員会参加

「住民自ら一步を踏み出したことに大きな意義」

秋田魁新報社論説委員 鈴木 亨委員

若者が出て行き、残った人たちも少しずつ老いていく。生まれる子どもは少なくなり、ついには、人口そのものが減ってゆく。

人のいないところに活気は生まれない。つらく、淋しいことだが、わが秋田が確実にたどっている道筋だ。

さて、どうしよう。現実を知れば知るほど、先行きは暗く見える。しかし、嘆いているばかりでいいのだろうか。

これをすれば解決する、という決定打はなかなか見つからない。だが、まずやってみよう。たとえ、当初思い描いた結果がついてこなくても、いま、こうして考え、行動していることが一つの活気であり、



後三年駅前空き店舗での視察

いつかは大きく育つ「にぎわいの芽」になるかもしれないのだから。

さる8月2日、美郷町仙南地区（旧仙南村）を訪れ、こんな取り組みに出合った。

取り組みの主体は、仙南地区が「雁の里」であることにちなんで名付けた「雁の里ふれあい委員会」。住民30人がメンバーとなり、少子高齢化に限らず、障害者問題や過疎化、活性化など地域が抱える課題に、昨年来、トータルに立ち向かっているところが、最大の特徴であろう。

確かに、自然発生的に始まった活動ではない。秋田県社会福祉協議会が展開する「地域福祉トータルケア推進事業」のモデル指定を受けたことが、大きなきっかけであった。

しかし、住民間に「私たちの手でどうにかしよう」という思いが広がっていなければ、決して成り立たない取り組みだ。

その強い思いは、「雁の里ふれあい委員会」の作業部会の一つ「空き店舗活用部会」の会合にもはっきり表れていた。さる8月2日、夜分にもかかわらず、熱っぽく話し合いを続ける部会メンバーの姿に、仙南住民の底力さえ感じた。

この部会が進めているのは、活気が失われる一方の後三年地区に、住民交流拠点「よってって」を設置する事業だ。閉鎖された農協の出張所を借りて、誰もが立ち寄り、和気あいあいとひとときを過ごせる場にしようという試みである。

少し厳しい見方をすれば、9月2日のオープンまでも、さらにオープン後も大小さまざまな問題が起こるかもしれない。

しかし、何を恐れることがあろう。何より大事なものは、住民が自ら一步を踏み出したことにある。きっと、後三年地区の人たちは、その意図をくみ、盛り立ててくれるに違いない。

「美郷町社協の取り組みを視察して」

湯沢市あかねの会 丹すみ子委員

社協職員の皆様から、人の温かさが終始伝わってくる見学調査でした。町村合併による混乱の時期だったと思われそうですが、トータルケアが町おこしと町民が不安から抜け出す方向に、よく作用したと思われそうです。

公私の機関の統合により、町民が不安の中にいるときに、本事業を通して町民に視点を置き、アンケートによるニーズ調査、公募による委員会の参加など、事業の出発点に「まず町民ありき」のところが見えます。

行政と社協、社協と専門職の関係（ネットワーク）はある程度よい方向に機能するだろうと思われそうですが、5つの作業委員会が活動開始の際、担い手となる住民、利用者となる住民をどのように輪の中に参加させていくかが課題のように思います。

今後、子育て中の母親、高齢でも元気な方、団塊の世代の方たちの意識改革が進められ、人としての尊厳が守られるすばらしいトータルケアが実を結ぶことをお祈りいたします。



雁の里ふれあい委員会作業部会の様子

【新聞記事から】

平成 18 年 8 月 24 日 朝日新聞に掲載

【トピックス】

美郷町社協仙南地区の第3階層サポート委員会「雁の里ふれあい委員会」で検討を重ねてきた空き店舗活用がついに動き出します。後三年駅前にある元JA出張所に地域交流拠点「よってって」が9月2日(土)オープンします。お近くへお越しの際は、ぜひ「よってって」ください!